# 119A – マルセイユで略奪被害が大幅に減少、前週の暴動から状況が改善

フランス南部のマルセイユでは、10月24日（土）に新たなデモが行われました。前週とは異なり、集会は比較的落ち着いた雰囲気の中で進みました。しかし、夕方以降、一部で暴力行為や店舗への略奪が発生しました。

市内中心部では、閉店後の宝石店が襲われました。犯人たちは金属製のシャッターをこじ開け、ショーウィンドーを壊し、主に腕時計や宝石を盗みました。店の経営者は、襲撃に気づいた近隣の商店主から連絡を受けました。

数本離れた通りでは、スーパーマーケットも被害に遭いました。こちらでは、犯人たちがまだ店内にいる間に警察が到着し、約20人が拘束されました。

午後に行われた労働組合のデモ自体は、大きな問題もなく進んでいました。しかし、夕方になると一部の参加者と警察との間で衝突が始まり、夜の初めまで続きました。

マルセイユ市長のブノワ・パヤンによると、10月17日と比べて状況は大幅に改善しました。前週は約450店舗が被害を受けたのに対し、24日はわずか4〜5店舗でした。市長は、市警察や国の治安部隊、海軍消防隊が大規模に動員されたことで、被害を抑えられたと考えています。

商店街の一部では、前週の暴動の跡が今も残っています。多くの住民が怒りを表しています。自分たちの権利を守るためにデモを行うことは理解できても、他人の店や財産を破壊することは許されないと考えています。

こうした緊張が続く中、マルセイユでは10月31日と11月5日にも新たなデモが予定されています。当局は、さらなる暴力行為を防ぐため、引き続き警戒する必要があります。

# 119B - シュスクラン村で昔ながらのブドウ収穫祭を開催

フランス南部のガール県にあるシュスクラン村では、毎年、ブドウ栽培の歴史を紹介する祭りが開催されています。週末の間、住民や観光客は20世紀初頭の時代へとタイムスリップします。「歴史のブドウ収穫祭」と呼ばれるこの催しでは、昔の伝統や仕事を体験することができます。

祭りでは、多くの参加者が伝統的な衣装を身につけます。男性も女性も、先祖たちが行っていたように手作業でブドウを収穫します。収穫したブドウの房は、馬が引く荷車で運ばれます。観光客も収穫に参加し、剪定ばさみの使い方を学ぶことができます。

この祭りでは、現在ではほとんど見られなくなった昔の職業も紹介されています。例えば、刃物研ぎ職人は、ブドウ畑で使う道具の刃を研ぐ仕事をしていました。また、ブドウ農家の妻たちは、家計を助けるために羊毛を加工する仕事をすることもありました。

特に人気があるのが、昔ながらのブドウ搾りです。参加者は現代の機械を使わず、自分たちの力でブドウから果汁を搾り出します。その後、観光客は甘みの強い搾りたてのジュースを味わうことができます。

この祭りは地元のブドウ栽培農家の組合によって開催され、毎年多くの観光客が訪れます。シュスクラン村の冬の人口は約1,000人ですが、祭りの期間中にはその4倍もの人々が集まります。

2026年には、「歴史のブドウ収穫祭」が第27回を迎えました。主催者にとって、この祭りの目的は観光客を楽しませることだけではなく、若い世代に伝統を伝えることでもあります。

実際に、ブドウ農家の子どもたちの中には、親の仕事を引き継ぎ始めている人もいます。この祭りは、先祖たちの労働環境を理解し、地域の大切な文化遺産を守る機会となっています。

# Questionnaire

1. マルセイユ中心部の宝石店で何が起こりましたか。

2. スーパーマーケットでは何人が拘束されましたか。

3. 警察との衝突はいつ始まりましたか。

4. 10月17日から24日にかけて、被害を受けた店舗の数はどのように変化しましたか。

5. デモを行う権利があるにもかかわらず、なぜ一部の住民は怒っているのですか。

1. シュスクラン村はどこにありますか。

2. 祭りの間、参加者たちはどのようにブドウを収穫し、運びますか。

3. 刃物研ぎ職人はどのような仕事をしていましたか。

4. 祭りの期間中、シュスクラン村にはおよそ何人の人が集まりますか。

5. なぜ主催者たちは若い世代に伝統を伝えたいと考えているのですか。